



米国取材報告：現地の物価動向と為替水準の考察

筆者は、9月7～11日の日程で米国のニューヨークを訪問し、現地の物価動向に関する実地調査と、現地金融機関へのヒアリングを実施しました。本稿では、外食・食料品を中心に現地の物価実態を報告し、同一商品の日米比較を通じて足元の為替水準を考察します。

▣ 外食：本体価格の高さとチップ率の上昇、円安が重なり負担が増大

実測価格リストに記載のとおり、一般的なファストフードのセットでも3,000円を超える水準であり、今回の実測では、ハンバーガー、ポテト、ドリンクのセット2人分の合計が約6,700円となりました。また、レストランのステーキランチは約12,000円で、NYの外食価格は日本の約2～4倍程度と感じました。価格が高くなる構造を、筆者が実際に支払ったレシートからみていきたいと思います。

写真1は、筆者が実際に支払った外食のレシートです。本体価格はパンケーキ約20ドル、コーヒー約5ドルの計25ドルでしたが、これに税（約9%）約2ドルとチップ（19%）約5ドルが加わり、支払総額は約32ドルとなりました。チップは「Suggested Tip」として19・22・25%の3択から選択する方式で、ヒアリングによれば、こうした3択方式は他店でも一般的で、以前は最低10%であったチップレートが上昇しており、筆者が体験した19・22・25%などの店も増えているとのことでした。そして、コロナ前と比べて大幅な円安が進行していることも、日本人にとっては負担を一段と重くします。実際、この32ドルをドル円100円（コロナ前の水準）で換算すれば3,200円ですが、足元の155円で換算すると約5,000円となり、円ベースの負担は5割以上増える計算です。

写真1 実際に支払った外食のレシート（本体価格・税・チップの内訳）



□ スーパー：高価格スーパーと低価格スーパー価格に大きな差、低価格スーパーには人が集まる

スーパーについても、全体的には日本よりも価格は割高ですが、商品による価格差が目立ちました。例えば、「フジリンゴ」については、高価格帯スーパーでは1個約500円なのに対して、低価格スーパーでは1個約100円でした（ただし高価格帯スーパーのものは"オーガニック"であり、商品性の違いがある点には留意が必要です）。

また、低価格スーパーでは、人の多さが目立ちました。現地で人気の低価格スーパー「トレーダーズ」を夕刻に訪問したところ、レジ待ちの列が店内を埋めるほどの盛況でした。同店は生鮮を含む食料品が他店より安く、物価高に直面するニューヨーク市民の需要を集めているものとみられます。

また、牛乳が1ガロン（約4リットル）単位で販売され、大型のホールケーキが多数陳列されるなど、商品の容量は日本と大きく異なります（写真3）。

写真2 リンゴの価格差（左：高価格帯スーパー／右：低価格スーパー）



写真3 1ガロン（約4リットル）単位で販売される牛乳



□ 同一商品の価格差は、1.3～2 倍程度 購買力平価からみた円の割安

最後に、同一商品の日米価格を比較し、ベッセント米財務長官の発言などで論点となっている「円の過小評価」について考察したいと思います。

筆者自身が支払ったスターバックスのコーヒー「グランデ」サイズの価格は、NY では約 800 円、東京では約 500 円と、1.5 倍以上の価格差がありました。なお、提供までの待ち時間は東京より長かったにもかかわらず、NY では「Gratuity ("謝意"の意)」という名目で約 150 円のチップ料が選択の余地なく上乘せされていました。また、ユニクロの「クルーネック T シャツ」は、NY 約 3,000 円に対し日本約 1,500 円と約 2 倍、任天堂「スイッチ 2」は、NY の店頭価格約 7.8 万円に対し日本の希望小売価格約 6 万円と約 1.3 倍の差でした（ユニクロの T シャツおよびスイッチ 2 の価格は、各社公式サイトより引用）。

いずれの品目でも、円建てでみた現地価格は日本を大きく上回ります。こうした価格差は、為替の長期的な決定理論である購買力平価説の観点から整理できます。同説は「長期的には二国間で同一商品の価格が等しくなるよう為替レートが調整される」という考え方であり、この観点では現状の円は割安と評価できます。通貨の総合的な価値を示す実質実効為替レートは、2020 年を 100 とすると約 35% 下落し、過去最低水準となっています（図表 1）（同指標は米ドルに限らず、日本と貿易関係にある各国通貨を貿易量などに応じて加重平均し、物価上昇率を勘案して算出されます）。今回の実地調査を通じて、筆者はこうした円の実力低下を肌で実感しました。

もっとも、為替水準は、上述した両国の物価水準のほか、金利差、貿易・投資資金の流れなど様々な要因で決まります。したがって、物価面で円が割安であることが、ただちに円高につながるわけではありません。足元の円安を支えているのは、米国と比べた低金利や国内企業による海外投資の拡大といった構造的な要因であり、これらが改善しない限り、当面は円安基調が続くと見込まれます。ただし、こうした要因が解消に向かえば、長期的には現在より円高方向に振れる展開も考えられます。

<同一商品の日米価格比較>

品目	ニューヨーク	日本	差
スターバックス（グランデ）	約 800 円	約 500 円	1.5 倍超
ユニクロ クルーネック T シャツ	約 3,000 円	約 1,500 円	約 2 倍
任天堂スイッチ 2	約 78,000 円	約 60,000 円	約 1.3 倍

図表1. 実質実効為替レートの推移



<参考> 実測価格リスト

外食

品目	現地価格	円換算(155 円/\$)	実際に支払
ハンバーガー、ポテト、ドリンクの セット 2 人分	\$43	6,665 円	●
ステーキランチ	\$77	11,935 円	●
コーヒー（スターバックス、 グランデ）	\$5.3	822 円	●
パンケーキ+コーヒー	\$32	4,960 円	●
ゴーゴーカレー（S サイズ）	\$9.55	1,480 円	

スーパー・テイクアウト

品目	現地価格	円換算(155 円/\$)	実際に支払
チーズケーキ	\$9.5	1,473 円	●
マフィン+クロワッサン	\$12	1,860 円	●
パック寿司	\$15	2,325 円	●
リング（低価格スーパー）	\$0.7	109 円	
リング（高価格スーパー）	\$3	465 円	
本わさび	\$6.4	992 円	
ホールケーキ	\$17	2,635 円	
ヤクルト（5 個入り）	\$5.4	837 円	
桜もち（こしあん）3 個	\$7.5	1,163 円	
ミルクレープ	\$7	1,085 円	
カップヌードル	\$3.2	496 円	
ピザ 1 切れ	\$2	310 円	
水 4 本	\$5	775 円	

衣料品・その他

品目	現地価格	円換算(155 円/\$)	実際に支払
任天堂の T シャツ	\$30	4,650 円	●
歯ブラシセット	\$3.15	488 円	●
地下鉄（1 回）	\$3	465 円	●
Switch 2（日本は約 6 万円）	\$500	77,500 円	
自転車レンタル（1 時間）	\$19~39	2,945~6,045 円	

品目	現地価格	円換算(155 円/\$)	実際に支払
I love NY パジャマ 2 枚	\$25	3,875 円	
ポロシャツ 3 枚	\$69	10,695 円	
「プーさん」ぬいぐるみ	\$60	9,300 円	
「マレフィセント」T シャツ	\$37	5,735 円	
「メッシ」ユニフォーム	\$112	17,360 円	

(注) 上記は、現地で記録した価格の実測値。「●」は筆者が実際に支払った項目。円換算は 1 ドル=155 円で試算



＜本資料に関してご留意していただきたい事項＞

※本資料は、ご投資家の皆様に投資判断の参考となる情報の提供を目的として、しんきんアセットマネジメント投信株式会社が作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。

※本資料は、信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。また、いかなるデータも過去のものであり、将来の投資成果を保証・示唆するものではありません。

※本資料の内容は、当社の見解を示しているに過ぎず、将来の投資成果を保証・示唆するものではありません。記載内容は作成時点のものであり、予告なく変更する場合があります。

※投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の補償の対象ではありません。また、登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。

※投資信託は、値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替リスクもあります)に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、預金と異なり投資元本が保証されているものではありません。運用による損益は全て投資者の皆様に帰属します。

※特定ファンドの取得のお申込みに当たっては、販売会社より当該ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)をあらかじめ又は同時にお渡しいたしますので、必ず内容をご確認の上、ご自身でご判断ください。

【お申込みに際しての留意事項】

■ 投資信託に係るリスクについて

投資信託は、株式や債券等の値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替リスクもあります)に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、預金と異なり投資元本が保証されているものではありません。運用による損益は全て投資者の皆様に帰属します。

また、投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、ご投資に当たっては投資信託説明書(交付目論見書)や契約締結前交付書面をよくご覧ください。

■ 投資信託に係る費用について

(お客様に直接ご負担いただく費用)

- ◆ ご購入時の費用・・・購入時手数料 上限 3.3%(税抜 3.0%)
- ◆ ご換金時の費用・・・信託財産留保額 上限 0.3%

(保有期間中に間接的にご負担いただく費用)

- ◆ 運用管理費用(信託報酬)・・・純資産総額に対して、上限年率 1.628%(税抜年率 1.48%)
- ◆ その他の費用・・・監査費用、信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、有価証券売買時の売買手数料等および外貨建資産の保管等に要する費用は、ファンドより実費として間接的にご負担いただきます。また、投資信託証券を組み入れる場合には、お客様が間接的に支払う費用として、当該ファンドの資産から支払われる運用管理費用、投資資産の取引費用等が発生します。これらの費用につきましては、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を示すことができません。

投資信託に係る上記費用(手数料等)の合計額については、ご投資家の皆様がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

《ご注意》

上記に記載しているリスクや費用につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、しんきんアセットマネジメント投信が運用する全ての投資信託のうち、ご負担いただくそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なりますので、ご投資される際には、事前に投資信託説明書(交付目論見書)や契約締結前交付書面をよくお読みください。

※本資料で使用している各指数に関する著作権等の知的財産権、その他一切の権利はそれぞれの指数の開発元もしくは公表元に帰属します。